

事例紹介 | 再エネデベロッパー | ノンファーム出力抑制分析レポート

背景・課題

- ◆ 再エネ導入拡大に伴い需給バランスが崩れ、電力の安定供給に支障をきたす恐れが生じたことから、経産相が指定した電気事業者は、無制限・無補償で、太陽光発電等の出力制御を受けており、**出力制御による売電機会の損失が事業性にどの程度影響を与え得るか**を見極めることが、事業性評価上重要である。
- ◆ さらに、システムの空き容量不足により、新規再エネ接続が制限されている背景を踏まえ、**系統混雑時の出力制御を条件に新規接続を許容する「ノンファーム型接続」**について、特定地域においては暫定接続という形でその適用が図られてきており、従来の需給要因に加え、ノンファーム型接続に伴う系統要因の出力制御を考慮した、出力抑制分析が必要となっている。

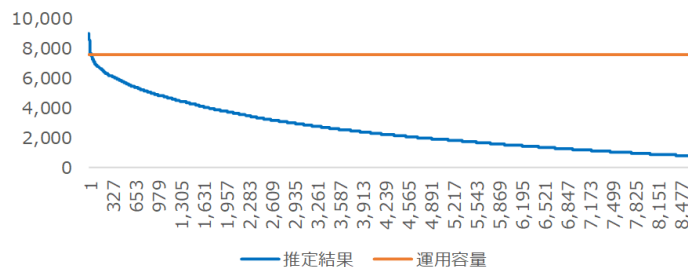
お客様概要

業種	再エネデベロッパー 大手電力・ガス、他
売上高	N/A
従業員数	N/A
事業概要	再エネの開発、建設及び運営

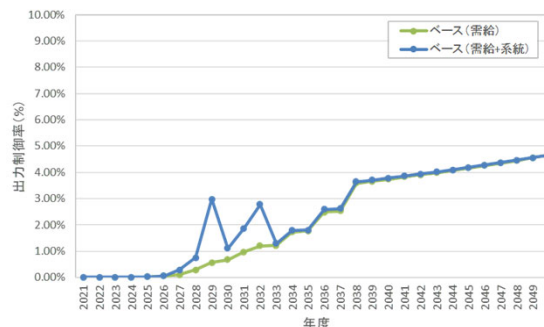
プロジェクト概要

- ◆ 制度変更により新たに加えられた系統混雑時の出力制御を条件に新規接続を許容する“ノンファーム接続”形態の発電所における事業性評価の一環として、**従来の需給要因に加え、系統要因による出力抑制率の分析・評価**を行う。
- ◆ 分析に際しては、将来にわたる事業環境を把握することが必要なため、エネルギー基本計画他、政府方針に加え、各エリアの電力需要、発電所の新設・廃止計画等、需給にかかるマクロトレンド等を踏まえ、**複数シナリオを設定し各シナリオにおける出力抑制率を推計する。**

特定の送電線の運用容量に対する潮流量 (デューレーションカーブ)【例】



特定の電源に対する出力抑制率 (需給要因 + 系統要因)【例】



実施成果

- ◆ **特定の発電所/特定エリアの電源種別に対する出力制御率分析結果。**
- ◆ 蓋然性の高いベースシナリオに加え、**再エネ大量導入等、将来起こりうるストレスシナリオ、顧客側指定のシナリオ等、複数シナリオを設定し感度分析も実施。**
- ◆ 出力抑制分析結果に関するレングダー対応のサポートも実施。

担当コンサルタント



早矢仕 廉太郎 はやし れんたろう

環境・エネルギー・資源戦略
マネジャー



榎本 恭平 エノモト キョウヘイ

環境・エネルギー・資源グループ
コンサルタント



段野 孝一郎 だんの こういちろう

環境・エネルギー・資源戦略
プリンシパル/主席研究員